

アーサー王と石の剣^{けん}アーサー王と石の剣^{けん}

(イギリスの伝説)

昔、イギリスの王が亡くなったあと、国には王がいなくなり、貴族たちが、だれが次の王になるかをめぐって争っていました。国は、みだれていくばかりでした。

ある日、ロンドンの教会の庭に、大きな石が現れました。その石には一本の剣^{けん}がささっていて、こう刻まれていました。「この剣^{けん}を石からぬいた者こそ、この国の正しい王である。」

たくさんの貴族や騎士^{きし}たちが、剣^{けん}をぬこうとしました。けれども、どんなに力の強い者が引っぱっても、剣^{けん}は少しも動きませんでした。中には、けんかになりそうになる者までいました。

そのころ、アーサーという少年が、兄の騎士^{きし}の手伝いをしていました。ある日、兄が自分の剣^{けん}を宿に置き忘れたので、アーサーは代わりの剣^{けん}を探しに出かけました。そして、教会の庭の石にささった剣^{けん}を見つけると、何も知らずに、それをすっとぬいてしまったのです。

人々は、たいそうおどろきました。アーサーは、その後、何度も人々の前で剣^{けん}をぬいてみせ、ついに、王として認められました。アーサー王は、円卓^{えんた}の騎士^{きし}たちとともに、国をまわめていったと伝えられています。

1

石には、剣^{けん}をぬいた者が何になると刻まれていましたか。

この国の正しい



2

貴族や騎士^{きし}たちが剣^{けん}をぬこうとすると、どうなりましたか。

ア かんたんにぬけた。

イ 少しも動かなかった。

ウ 折れてしまった。

3

アーサーが、教会の庭に行ったのはどうしてですか。

4

アーサーが王として認められたのは、どうしてですか。